

Bangladesh International Cooperation Team (BICP) 第二回現地渡航活動報告 @大磯ロータリークラブ様

早稲田大学文学部社会学コース3年 原貫太
早稲田大学教育学部社会科学専修2年 高橋昌弘



渡航概要①

- 期間

2015年3月2日～18日

(計 17日間 / 現地滞在15日間)

- 活動地

バングラデシュ / 首都ダッカ

- 渡航メンバー

原貫太、末木秀和、岡怜美、神谷一帆、高橋昌弘、メルトン麗亜 (計6名)

渡航概要②

1. Awareness for The Childの実施
2. Conference with Street Childrenの実施
3. 現地団体・NGOとの意見交換

当団体が問題意識として掲げている

『ストリートチルドレン問題』

にフォーカスをした活動を多岐に渡り行った

ストリートチルドレンが直面する問題・リスク



- 栄養不良
- 感染症
- 劣悪な労働環境(児童労働)
- 教育機会の欠如
- 警察や一般市民からの暴力
- 性的暴行
- 少年兵

「今の生活で、問題は何？」

と聞くと・・・

「何も問題は無いよ。
楽しく生活しているよ。」

の回答。



Conference with Street Children (CSC)



●日付

第一回CSC:2015/3/8

第二回CSC:2015/3/11

※本日は、主に第二回CSCについてお話させていただきます。

●目的

- ①「ストリートチルドレンと共に路上生活について考え、彼らを Awareness Raising (意識づけ) すること」
- ②「現地学生並びに現地団体メンバーのストリートチルドレン問題に対する意識をより深めること」
- ③「ストリートチルドレンと、現地学生並びに現地団体メンバーの双方が歩み寄り、共に考え、お互いを理解すること」

●形式

- 3つのテーブルに分かれ、各テーブルに均等にストリートチルドレン・バングラデシュ人・当団体渡航メンバーが着く形を取った。一つのテーブルには合計で7～9名が着いた。



各テーブルの様子



会場全体の様子

- 各テーブルの会話は、「ストリートチルドレン⇄バングラデシュ人」はベンガル語、「バングラデシュ人⇄当団体渡航メンバー」は英語で行い、必要に応じてバングラデシュ人には通訳をしてもらった。

●参加者

- 当団体渡航メンバー:6名
- バングラデシュ人学生並びに「Lets Do...Foudation」メンバー:6名
- ストリートチルドレン:9名(現地NGO「Aparajeyo-Bangladesh」の施設より7名、Kamalapur駅より2名。
Kamalapur駅より参加した2名は、第一回CSCにも参加した。)

●内容

1. 開会の挨拶(10分)
2. BICP & 現地団体「Lets Do...Foundation」の団体概要(10分)
3. アイスブレイク(10分)
4. 導入(10分)
5. ディスカッション I (20分)
6. 休憩(10分)
7. ディスカッション II (20分)
8. 終わりに(10分)

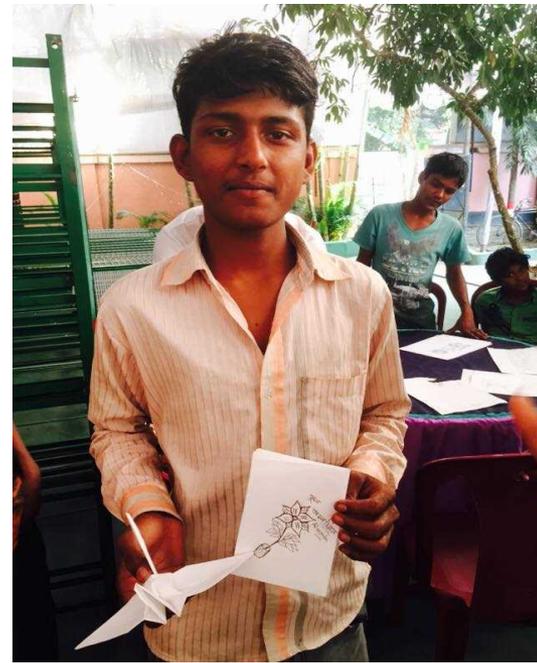
●内容

1. 開会の挨拶

CSC開催場所のオーナーであるMostaque Ahmed様の挨拶、**並びに第一回CSCに参加したストリートチルドレンのベラル君・アラミン君が、第一回に参加した感想を発表。**



ベラル君(16歳)



アラミン君(17歳)

●内容

4. 導入

「**ストリートチルドレンが、自分たちの路上暮らしの生活を客観視すること**」を目的に、第一回現地渡航で出会った元ストリートチルドレンの Abdul Khalek 君について紹介した。

His former life on a street

• His parents passed away

• No drugs



• No school



@kids-art.toykoku.com

• Begging, or borrowing money from his friends.



• Had to live alone.

Current his life



• Hotel kitchen

• 200 BDT

• Hotel dormitory

●内容

4. 導入



Abdul Khalek君

以前の生活

- 幼い頃に両親を亡くした
- MAZAR (廟堂) で路上生活をしていた
- 学校に通っていなかった
- お金は物乞いしたり、友人から借りていた
- 一人で生活していて、寂しかった

現在の生活

- 友人に紹介して貰ったホテルのキッチンで働いている
- 1日の収入は200タカ
- 友人とホテルの寮で寝泊りしており、路上生活から脱却できた。

5. ディスカッション I

4の導入に対する意見・感想。また各グループ代表者の発表。

●内容

7. ディスカッションII

「路上で暮らすことの問題やリスク」「それらの問題やリスクを改善するためには」という二つのテーマに対し、各テーブルで話し合った。その後、各テーブルの代表者が前に出て意見を発表した。



Lets Do...Foundationのメンバーが「路上で暮らすことの問題やリスク」について尋ね、それに対して参加者のストリートチルドレンが答えている様子。

●報告

1. 開会の挨拶



第一回CSCに参加した感想を話すストリート
チルドレンのベラル君。
→詳しい感想は第一回CSC後に行ったイン
タビュー時の報告にてお話しします。



ベラル君・アラミン君の話を真剣に聞く、他
のストリートチルドレンの子供たち。

●報告

第一回CSC後のインタビュー

★ベラル君(16歳)



- Kamalapur駅のストリートチルドレンの中では、リーダー的存在。



- 第一回現地渡航時にメンバーがKamalapur駅を訪れた際彼と出会っており、私たちの事を覚えていた。
- 農村部に家があり、出稼ぎでダッカに来ている。時々稼いだお金を持って実家に帰る。

●報告

第一回CSC後のインタビュー

★ベラル君(16歳)



Q. CSCに参加した感想を簡単に聞かせて下さい。

A. このようなイベントには初めて参加した。私のことを信用して招待してくれたのが凄く嬉しかった。

Q. CSCに参加したことで、自分の生活を見直せたか。

A. 2つの事に気づくことが出来た。

一つ目は、今の自分の生活が良くないという事。元々、今の生活が良くないとは思っていたが、CSCに参加した事でその気持ちが強くなった。

二つ目は、「ここから何とかしてより良い生活にしていきたい」、という気持ちになれたこと。まずはそのために、しっかり勉強したい。

●報告

第一回CSC後のインタビュー

★ベラル君(16歳)



Q. CSCをより良いものにするために、どんなものが必要だと思うか。

A. 警察や組合の人たち(ストチルの仕事を奪う)も招待してCSCをやりたい。

Q. CSCで学んだことを、今後どのように活かしていきたいか。

A. 学んだことを他の人にも伝えて、その人にも他の人にも伝えてもらった、この学びを広げていきたい。

Q. CSCの運営スタッフをやってみたいか。

A. 2人(アラミンと)いれば大丈夫！やってみたい。

● 報告

5. ディスカッション I



意見を発表する
ストリートチルドレン
*Presentation on
Their Opinions*



●報告

5. ディスカッション I

ナウム君…「Abdul Khalek君のMAZARでの生活は、とても悪いものであったと思う。そこで生活していた時は、彼の周りには彼を可愛がってくれる人や意見を言ってくれる人がいなかった。その変な生活から今は抜け出せているし、自ら稼げているし、麻薬も使っていないため、良い生活を送ることができていると思う。」

シナム君…「Abdul Khalek君が、前より良い生活を送れていることに感動した。前の生活では、これが良いことで、これが悪いことなどと教えてくれる人がいなかったらろう。暗い人生をやめて、良い方向に向かっていた。」

Conference With Street Children of Bangladesh

Date : March 11, 2015

Place : Pathyo Noiso Biddaloy

472/B, Khilgao Taluk, Dhaka-1219

In Association With



Bangladesh International Cooperation Partners



Let's Do... Foundation

Let's Do... Foundation



Awareness for
The Child

今後の方針

●3つの柱

1. ストリートチルドレンに対するAwareness Raising
(意識づけ)、並びにその継続
2. 社会が持つ、ストリートチルドレンに対する“負”のイメージを変えていく
3. ストリートチルドレンの「声」「思い」を社会に対して発信していく
- (4. 現地NGO施設への橋渡し(紹介))

●Conference with Street Children (CSC)

- ・警察や労働組合の人間、政府関係者等、更に多くの関係者を巻き込みCSCを開催する。

- ・第一回第二回に参加したストリートチルドレンを、次回以降のCSCでスタッフとして雇用

- ・次回のCSCに参加するストリートチルドレンは、現地渡航メンバーが今回のCSCに参加したストリートチルドレンと共に路上に出向き、募る。

● カウンセリング & モニタリング

- ・現地団体「Lets Do...Foundation」に、CSCに参加したストリートチルドレンへのカウンセリング & モニタリングを定期的に行ってもら。また定期的に日本とSkypeで繋ぎ、我々も彼らのカウンセリング & モニタリングを行う。
- ・いずれは現地NGOの施設への橋渡し(紹介)を行い、そこでのカウンセリング & モニタリングを行うことも目標とする。



日本にいるメンバーとSkype(ビデオ通話)で話す、
第二回CSCに参加したストリートチルドレン。

終わりに

●第三回現地渡航について(2015年9月を予定)

活動内容(予定)

- Conference with Street Children
- ストリートチルドレンと協働した社会貢献プロジェクト(内容未定)
- 現地団体と今後の方針に関する話し合い etc...

必要経費

【Conference with Street Children (2日間)】

- 会場費:45000円 •プロジェクター:15000円 •バナー作成費:3000円 •スクリーン:6000円 •音響:6000円 •装飾&催し:15000円 •他雑費:7000円
- 参加したストリートチルドレンへの生活費:3000円(300円×10名)

計10万円

ご静聴ありがとうございました

